

◎「八王子城戦死者招魂碑」

昭和八季歳次癸酉十二月（昭和八年十二月）

天野佐一郎 撰文ならびに書

天正十八年（1590）六月廿三日、八王子城は陥落した。初め豊臣氏が北条氏を討つに当たり上杉、前田の二将は八王子を攻めた。この時留守していた中山、狩野、金子、近藤の諸将は少ない兵を以って大軍に対抗し奮戦力闘して刀折れ矢盡き一死以って其の主に報じた。誠に壮烈な極みである。是の当時城主氏照は小田原に在って七月十一日兄氏政とともに自刃した。徳川氏が天下を定むるに当たり中山、狩野、二将の子孫は秩禄を受けて各自祭祀を承けつべことを得たが、他の将士は率ねその霊を祀らざることここに三百数十年、これを哀れんで実相講員が相談し、その忠魂を弔うため此の碑樹ったことは立派な行為と謂うべきである。後人、此の碑を読んで感奮する所が有ればその風教に裨益する所決して少なしとしない。

○招魂碑は実相講の人々がきよきん醸金して建てた慰霊塔で城山の中腹にある。碑文は塔の台座の正面に刻されている。（以上

「多麻金石文」より）